



内政

1. アローネ議員BCPを離党

アローネ国民議会議員（オカバンゴ選挙区）は野党ボツワナ議会党（BCP）を離党し、与党ボツワナ民主党（BDP）に移籍した。

（7日：ボツワナ・ガゼット紙）

2. カーマ大統領の「BDP救済キャンペーン」がスピードアップ

10日、カーマ大統領はBDP国民議会議員及び地方議員全員を対象とした党集会を開催し、2014年の総選挙での結果を憂慮し、党の魅力を回復するため党の活動に力を入れる旨訴えた。（11日：ウィークエンド・ポスト紙）

3. モヨ議員のビジネスに係る捜査が中国へ

モヨ国民議会議員の中国企業とのビジネスに係るマネーロンダリング及び汚職捜査が未だ進行中である。オロペン青少年スポーツ文化大臣の関与も疑われている。（16日：ボツワナ・ガーディアン紙、16日：メヒ紙）

4. BDP破産

BDPは運営費の捻出に苦労している。同党は、補欠選挙に多くの費用を費やし、現在は国民議会議員、地方議員からの会費、不動産収入で生き長らえている状況である。

（24日：ボツワナ・ガーディアン紙）

外交

1. ケニア大統領、ボツワナ訪問

27日、ケニヤッタ・ケニア大統領が3日間の公式訪問のためハボロネに到着した

（夫人、閣僚、政府高官同行）。同日の午餐会及び首脳会談の後、観光及び水資源管理に関するMOUが両国間で署名された。

28日、ケニヤッタ大統領は、第2回ボツワナ・ケニア・ビジネス・フォーラムに参加、またダイヤモンド・トレーディング・カンパニー・ボツワナ（DTCB）、オラパ・ダイヤ鉱山を視察した。（28日、29日：デイリー・ニュース紙）

2. レソト情勢にかかるSADCダブル・トロイカ・サミットの開催

6月28日、当地ハボロネで、レソト情勢にかかるSADCダブル・トロイカ・サミットが開催され（カーマ・ボツワナ大統領、ニュシ・モザンビーク大統領、ズマ南ア大統領、ムスワティ三世・スワジランド国王、ムガベ・ジンバブエ大統領、マジハリワ・タンザニア首相参加）、レソト政府に対し、全てのSADC決定事項（特に治安・憲法改革）についてタイムフレーム付きの包括的なロードマップを作成し、その進捗報告書を8月のサミットに提出するよう求めるなどの内容のコミュニケが発出された。

（28日：SADCサイト記事）

4. 大使の信任状捧呈

20日にハンガリー、23日にバングラデシュの新大使（双方とも駐南ア）がカーマ大統領に信任状を捧呈した。

（21日、24日：デイリー・ニュース紙）

経済

1. 経済指標

1) ボツワナの主要経済指数

・経済成長率

2016年第1四半期の経済成長率は、前期比1.8%。

・インフレ率

2016年5月は2.8%（2016年4月は2.8%）。

・為替レート（FNB）

2016年6月30日：

1 プラ = 0.088米ドル

1 プラ = 1.315南ア・ランド

1 プラ = 9.19円

2016年5月31日：

1 プラ = 0.086米ドル

1 プラ = 1.355南ア・ランド

1 プラ = 9.70円

2. ダイヤモンド産業

1) 6月サイト、売上げ減少

デビアス社の報告によると、6月サイトでの同社の売上げは5億6千万米ドルと、前回サイトから8.5%の減少を記録した。一方で、ダイヤモンド専門家の報告では、英のEU離脱がダイヤモンド市場に長期的な影響を与えることはないとの見方が示さ

れている。

（29日：メヒ紙）

3. エネルギー・資源

1) 冬期、電力需要25%上昇予測

ボツワナ電力公社（BPC）の発表によると、現在530MW前後である国家電力需要は、冬期が近づくとつれ25%上昇し669MWに及ぶものと予測される。現在、モルプレB石炭火力発電所は4機中2機のみが稼働しており、260MWを出力中。短期的には、南アからの電力輸入に頼ることとなるであろう。長期的には、モルプレB発電所の5、6号機建設等により合計1,000MWの電力供給が期待される。（2日：メヒ紙）

2) カーマ大統領、SADC水・エネルギー大臣を招集

20日、SADC議長であるカーマ大統領は、現在南部アフリカ地域において深刻化している水・電力不足問題について話し合うべく、SADC加盟国の水・エネルギー担当大臣を招集し2日間に亘る会合を開催した。同大統領は、スピーチで、「加盟国は、政治的意志を持って、国民に十分な水と電気が行き渡るためのインフラ整備を行うように」と働きかけた。同会合において、SADC事務局は、水・電力不足に取り組むべく、ステークホルダーにも協力を求めた。

（21日：デイリー・ニュース紙）

3) BCL社の鉱山でまた事故発生

21日及び28日にBCL社の鉱山で再び事故が発生したが、死亡者はなかった。

(22日, 29日: メヒ紙)

4. ボツワナ銀行, 経済成長目標値に悲観的

ボツワナ銀行は, ボツワナ政府が設定する2016年の経済成長目標値である4.2%に対し, 達成困難な値であると悲観的な見方を示した。同様に, IMFは2016年の経済成長率を2.5%と予測する他, S&P (スタンダード・アンド・プアーズ) もボツワナの経済評価を「ネガティブ」へと引き下げたところである。(24日: メヒ紙)

5. 英のEU離脱決定を受け, プラ高

英のEU離脱決定を受け, プラはポンドに対し4.44%の高値となった。(26日: サンデー・スタンダード紙)

6. EU-SADC経済連携協定, 署名

10日, ボツワナ北部に位置するカサネにおいてEU・SADC経済連携協定(EPA)がボツワナ, レソト, ナミビア, モザンビーク, スワジランド, 南アの貿易担当大臣によって署名された。南アを除く同5カ国が農業分野の23品目に関し12年間の幼児産業保護を目的としたセーフガードを付した上でEUとのEPAに合意した形となった。

(11日: ウィークエンド・ポスト紙, 12日: サンデー・スタンダード紙)

7. TICAD VI 開催

8月27日~28日にアフリカで開催されるTICAD VIは, 市民社会にとって様々な開発計画の恩恵を受ける良い機会で

ある。マシーレ元大統領は, 93年の第1回TICADに出席した5名のアフリカ首脳の一部であり, TICADの先駆者とも言える。こうして開発援助や貿易を通して築いてきた日・ボツワナ外交関係は, 今年で50周年を迎える。

(10日: ガーディアン紙)

8. ケボナン副大臣, フォーラムに参加

ケボナン投資通商産業副大臣は, 7日から東京で開催されるSADC日本ビジネスフォーラムに参加する。同フォーラムには300の日本の民間企業, 12のSADC諸国の企業が参加する。

(9日: デイリー・ニュース紙)

文化

1. 日本大使館が柔道場建設に資金供与

28日, 日本政府の草の根文化無償資金協力による柔道場の起工式がボツワナ柔道連盟の主催により開催され, 尾西大使, オロペン青少年スポーツ文化大臣等が出席した。同式典では山下泰裕全日本柔道連盟副会長からのメッセージも紹介された他, 鍬入れ式も行われた。

(30日: デイリー・ニュース紙, 7月1日: メヒ紙)